

Re

2014.10 NO. **184**

Building Maintenance & Management

特集 | グローバル化

- ▶インタビュー この人に聞く 山下和弥 2
- ▶訪ねてみたい このまち・この建築：高梁市(岡山県)
一備中松山城と吹屋の街並み一 加藤美穂 4

特集 | グローバル化

日本経済の発展とグローバル化	佐藤正弥 7
ものづくりにおけるグローバル化の意味するもの	吉川良三 13
グローバル化と日本の森林：地理学からの視点	小林 茂 20
真のグローバル化とはなにか？	遅美育子 24
「地域貿易協会」を巡る論点と日本経済への影響	遠藤正寛 28
地方自治体の国際化に係る取組み (一財)自治体国際化協会	32
環境・文化の違いを越えた建設産業の海外展開	舟山桂介 36
世界に飛躍する日本の建築設計	山梨知彦 40
グローバルスタンダードとファシリティマネジメント	松岡利昌 44
「グローバル化」する日本庭園の背中を追いかけて	小杉左岐 48
COLUMN ①中銀カプセルタワーに住んでいた 留学生から見た日本の生活 MARIA LARSSON	52
COLUMN ②アニメ、マンガはなぜ世界で支持されるのか？	櫻井孝昌 54
COLUMN ③外国人力士はなぜ日本語がうまいのか	宮崎里司 56
COLUMN ④グローカル(化)という考え方	上杉富之 58

<シリーズ> 維持管理の資格と技術

- 建築・設備総合管理技術者、建築仕上診断技術者(ビルディングドクター〈非構造〉)
 及び建築設備診断技術者(ビルディングドクター〈建築設備〉)の育成・登録
 (公社)ロングライフビル推進協会(BELCA) 60
- 建築物の維持・管理の法的責任【第1回】** 大森文彦 64

BMMレポート

- 建築基準法の改正について 国土交通省 68
 - 公共建築物の老朽化対策に係る事例集の作成 国土交通省 70
 - 貝塚市における FM への挑戦 岸本彌和子 74
 - 自治体等女性 FM 会第 1 回現地見学会のご報告
小川公子・細谷夢津美・勝俣沙耶香 78
 - 公共 FM 戦略セミナー 82
 - 新 BIMMS 戦略 86
 - 新たな公共 FM の方向性を探った
 「自治体等 FM 連絡会議宮崎大会」 鶴岡 修 88
-
- 公共建築月間 記念講演会等のお知らせ 90

真のグローバル化とはなにか？

—「世界で戦える人材」を育てるために—

あつみ いくこ
渥美 育子

(株)グローバル教育研究所 理事長/㈱グローバル教育 代表取締役

グローバル時代とは世界が一つの巨大な競技場のようになり、ごく普通の人間でも個をグローバル化することによって大きな資本や組織がなくても絶大な力を持ち得る“知識産業”の時代である。また、世界を眺望できるようになったため、人類が抱える負の側面である貧困、力による侵略や残酷性、環境破壊などもリアルタイムで分かるようになり、個の力をはるかに超える重い責任を自覚する時代でもある。したがって“絶大な力を持ち得る”“非力な個”という相反する状況の中で「個をグローバル化してこれまで天才と言われる人たちしか持てなかった力を効率よく身につけ、世界を変革できる人材を育てる」ことが時代の要請になってきた。こういうグローバル時代に必要な教育を“グローバル教育”と名づけている。「世界のグローバル化」と連動する「個の能力のグローバル化」を目指すこの新しい教育について説明し、「世界の建築の保全」という課題に当てはめると、どうなるか考えてみたい。

1 世界のグローバル化とグローバリゼーションの定義

今回の世界のグローバル化は、1991年12月のソ連邦の崩壊をきっかけに共産主義諸国も「市場経済」に移行し、アジア市場、ラテンアメリカ市場が生まれ、冷戦体制に組み込まれていなかった多くのイスラム文化国やインドも加わって、21世紀に世界中が原則同じルールでビジネスができる巨

大な市場となったことで始まった。90年代半ばにインターネットが使えるようになり、規制緩和によって大きな資本が国を越えて移動するようになると、この経済システムの大変化に拍車がかかり、世界の価値観も大きくシフトした。

しかしちょうど同時期に日本経済のバブルがはじけ、それまでの“国際化時代”にG7の国々に向けられていた日本人の目が、グローバル時代の始まりとともに山積する国内問題に向けてしまつて世界全体の大変化に気がつかなかったことが、いまの日本における真のグローバル化を妨げる原因になっている。グローバル時代の到来を描いたドキュメンタリー「フラット化する世界」(日本経済新聞出版、2008)の中で、米国のピューリツァー賞作家トマス・フリードマンは、「2000年頃……世界中の人々がグローバル化という意識変革を起こした」と指摘している。しかしその中に日本人はほとんど含まれていなかった。

グローバリゼーションとは、globe という英単語が天球としての地球を指すことから明らかのように、世界を一つのユニットとしてとらえ、関わり、行動を起こすことである。「グローバル」とは世界全体の、地球まるごとの、という意味であり、国と国の間の関わりに焦点を当てる「インターナショナル」とは視点も発想も異なる。80年代に日本でのビジネスを海外拡張し“国際市場”で成功した日本人は90年代の世界の大変革の時代に“失われた時”を過ごし、21世紀にグローバル

時代になると時代の変化に合わせてことができず、“グローバル市場”でつますいてしまったのだ。日本人の多くがいま「インターナショナル」と「グローバル」の区別もつかないでグローバル化を唱え始めているが、真のグローバル化とは言葉の正しい定義どおり、個として世界全体としっかり向き合うことから始めなければならない。

2 「国際化モデル」から「グローバルモデル」への転換

なぜ、「国際化モデル」のままだとグローバル化ができないのか？「国際化モデル」には三つの大きな欠陥があるからだ。自国中心で大局(世界全体)が読めないから戦略が立てられない。また、自覚症状なしに自国のメガネをかけたまま他の国の人たちを見ているので、自国優位に見えたり、極度に劣等感を抱いたりしてしまう。その延長線上だが現地の人たちが持つ価値観をありのまま理解できないので、彼らを動機づけたりマネージることができない。

それに対して「グローバルモデル」では三つの新しい価値が要求される。俯瞰視点、多様性の理解と活用、マトリックス思考である。

(1) 俯瞰視点：日本から窓を通して外国を見る「国際化時代」の姿勢では世界全体がよく見えない。この見方をやめ、高い位置に身を置いて世界全体を見降ろす視点を身につける。これがグローバルになる基本姿勢である。もし日本人が東洋思想における心眼を使えば、このスキルで優位に立てるし、眺め下ろした底辺に私が作成した70億の多様な人々の心の構図をパターン化した〈文化の世界地図〉™を置けば、人間のドラマが見えるようになる。加えて世界のニュースをスクラップブックにしていけば、刻々と変化する世界が地球規模で一層よく眺望できる

ようになるだろう。

- (2) 多様性の理解と活用：後述する〈文化の世界地図〉™と本体のナビゲーターを使えば世界の多様な民族のアイデンティティや文化のDNAを把握してビジネスに役立てることもできる。
- (3) マトリックス思考：人類が長年用いてきた二元的発想(例えば善か悪か)に代わって、グローバル時代には対立する、あるいは補完的価値を持つ二つの軸を設定して全体最適を目指すというマトリックス思考が重要になってきている。日本文化は“合わせる”文化なので日本人は軸がないか人間関係・人間力が唯一の軸になる傾向が強いが、世界では時間軸と空間軸、グローバルとローカル、ルールと多様性、個人情報収集と安全保障のように対立軸を共通の座標軸としてとらえることによってグローバルコミュニケーションや地球規模の問題解決を行うようになっている。

これら三つの新しい価値は“グローバル化の3種の神器”とも言えるのだが、日本人に大いに欠けている能力である。日本人はますます「国際化モデル」をやめ、この三つの能力を身につけるよう努力すれば、真のグローバル化に踏み出すことができるだろう。

3 世界市場で戦うためのグローバルマインドの設定

“3種の神器”を手に入れ「グローバルモデル」へ転換した後、次の七つの思考パターンを身につけることができれば文化を共有しない人たちでも感動させ、納得してもらうことができる。

- ①俯瞰視点、②最大の空間軸(世界空間)と時間軸(5,000年)、③メガトレンドの読み取りとビジョン、④マルチカルチュラルレンズ、⑤マクローミクロ視点の併用、⑥言葉・図・モデルによる強力な

発信、⑦スピード

俯瞰視点が“3種の神器”と重なっているのはグローバル化の扇の要だからである。この七つの思考パターンを“説得のための弁慶の七つ道具”と呼んで私自身激しい競争に打ち勝つために使用してきた。このうち世界空間と5,000年の時間軸という枠組みは、グローバルな競技場で戦うための土俵であり、21世紀型の学習に切り替えるため〈文化の世界地図〉TMが提供しているものである。

4 グローバルな競争の土俵を提供し、多様性の解明に役立つ〈文化の世界地図〉TM

冷戦体制崩壊後、民族のアイデンティティや文化のDNAが重要な価値として浮上してきた。グローバルビジネスを行う方程式はルールと世界標準の軸を一方に、多様性の軸を他方に設定するマトリックスである。そのため世界市場における多様性を解明する必要があると考え、米国時代に30カ国出身の講師の協力を得て〈文化の世界地図〉TMと本体のナビゲーターを作成した。

これまでの地理の世界地図とは違い、伝統を含め価値観のぶつかり合いによる人間のドラマが読み取れるようになる地図である。

- (1) 本体は30カ国のインテリジェンスからなる〈ナビゲーター〉：各国について時間軸にそって“伝統”の中身を開示し、空間軸にそって現地人の価値観と波長が合う文化的要因を“モティベーター”、反発の要因を“ディモティベーター”としてトップ15くらいを選び注をつけてリストにした。
- (2) 俯瞰図：(1)をベースに70億の多様な人々の心の構図を何に価値の中心を置いているかによって三つの文化コードとそのミックスに分けてパターン化した。
 - ①リーガルコード(Legal Code)：ルールとノウ

ハウに価値の中心をおく文化圏(米国、ケベック以外のカナダ、UKの内のイングランド、北欧諸国などキリスト教新教の信者が多い)。

- ②モラルコード(Moral Code)：人間関係に価値の中心を置く文化圏。検証の結果、アジアの儒教圏とラテンアメリカ、中部・南部のヨーロッパ諸国、中部・南部のアフリカ諸国などのキリスト教旧教文化圏をここに含めた。
- ③レリジヤスコード(Religious Code)：神の教えに価値の中心を置くイスラム教文化圏(イスラエル、レバノンを除く中東諸国、北アフリカ諸国、パキスタン、バングラデシュ、マレーシア、インドネシア、ブルネイなど)。
- ④ミックスコード(Mix Code)：リーガル、モラル、レリジヤスコードのうち二つが併存する文化圏(オーストラリア、ニュージーランド、インド、ドイツ、カザフスタン、オランダ、イスラエル、モラルコード国以外の中部・南部アフリカ)。

この地図は一見空間軸だけをカバーしているように見えるが、各文化コードからは価値体系の原点に向かって異なる長さの時間軸が延びている。リーガルコードからはヨーロッパで宗教改革が起き新教が分離した16世紀へ。儒教圏のモラルコードからは儒教が生まれたBC6～5世紀へ。カトリック圏のモラルコードからは西暦元年へ、そしてさらに一神教の起源である紀元前13世紀へ。レリジヤスコードからはイスラム教が生まれた7世紀まで。つまり、この俯瞰図は世界空間と5,000年の時間軸で囲まれた大きな枠を提供しているのだ。

〈文化の世界地図〉TMを作成して多様性の軸に関して二つのルールがあることを発見した。リーガルコードとモラルコードは価値観が正反対であること、モラルコードとレリジヤスコードには共通する価値がいくつかあるが、全く異なるコードだということである。

5 21世紀型学習法への切り替えと東洋思想の活用

ここで日本人のマインドセットは何を特徴としているか考えてみたい。細分化された科目ごとに違うことを学びテストを受ける繰り返してある学校教育。その結果、断片的知識の集合体になっている。受験をくぐるため正解が必ず一つあるという思い込みが強い。第二次世界大戦敗戦後に米国から民主主義を取り入れた時、機会の平等より平等な配分が重要だと思ったため何事も全員で話し合うコンセンサスによる意思決定が唯一民主的だという理解が強くなった。日本市場がそこそこに大きいと言語の壁、島国という環境から、日本でまず実践し、それから必要なら海外へという二段構え構造が出来上がった。それらが日本的マインドセットであれば、グローバル化とはすべてその正反対をすることだ。

グローバル化は、世界全体を見る、人類がやってきたことの総体を知る、そして未来を見通す能力、二つの相反するあるいは補完的な価値の軸を設定し全体最適を求める思考パターン、世界変革には俯瞰視点や戦略思考が必要だというトップダウン方式(だから自分もリーダーになって世界を担う必要があるという自覚)、まず世界全体を把握してその目で自国を見、自国からオリジナリティを発信して世界に貢献する重要さを理解する。したがって日本的マインドセットにグローバル化が求める能力を横申しとして通すことが最重要なのだ。それができれば日本人は世界最強の織物のようなソフトパワーを身につけることができる。これが日本人にとっての真のグローバル化であり、現在の教育改革の核心に据えて即刻実践してほしい。

これを実現するために私が提唱する21世紀型学習法は、これまでの自分発、自社発、自国発で世界を理解しようとする方法を逆にして、「世界空

間と5,000年の時間軸からなる人間にとっての最大の器」を早期に体得し、このリベラルアーツの枠組みであり、グローバル競争の巨大な土俵でもある領域から出発する方法である。そしてこの枠内の適切なところに持続的に知見を蓄積していけば、絶大な力を持つことができる。

加えて、今回の欧米発のグローバル化に東洋思想を活用することで日本人は競争優位に立ち、真のグローバル化に貢献できるのではないかと考える。例えば「道」(Daoism)の世界と今日の世界のグローバル化を比べると、究極に目指すところは「達観」と「世界変革」であり全く異なるけれども、個と世界を一体化させることで絶大な力を身につけるというプロセスは同じだからだ。

6 建築保全分野へのグローバルアプローチ

最後に私は門外漢であるが、21世紀型学習法を「世界の建築保全」の分野に当てはめるとどうなるか考えてみたい。

まず、5,000年の歴史と世界空間の枠組みで世界の建築保全をとらえる試みをする。そこから人類の遺産としての建築物が文化コードによるアイデンティティのぶつかり合いなどによって破壊されてきた事実が読み取れ、ユネスコの文化遺産以上の地球レベルのルールの設定が必要だという認識が生まれるだろう。日本は世界標準をベースにしたルールを導入するとともに、日本発で建築保全の次世代モデルづくりに役に立つような建築素材、新たな発想やデザインなどを発表、実践していくことができる。「Re」の全く異なる角度から課題を同時にとらえる俳句的発想は、最大の時間軸・空間軸を通して人類共通の課題としてこのテーマを見通す方法とペアになる時、世界レベルの力を発揮するのではないかとと思われる。